

第1回 計画検討委員会主な意見と対応について

(1) 陸上交通の現状・課題及び対策について

主な指摘	回答・対策方針など
<ul style="list-style-type: none"> ・現状の問題点の一つに、公共交通の乗換が円滑でないこと、小中学校の送迎、過度な自家用車利用があげられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考資料1に公共交通の乗換が不十分であること、子供の送迎が多いこと等を追記。
<ul style="list-style-type: none"> ・本島全体での位置付けに加え、中南部都市圏の都市交通としての位置付けが重要。 ・鉄軌道導入により期待されているのは、渋滞、環境へのインパクトである。 ・魅力的な鉄軌道にしていくことでマイカーからの転換を可能とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中南部都市圏の交通渋滞の緩和、駐留軍用地跡地を活用した、中南部都市圏の都市軸の構築を、課題として位置づけ、その課題解決に向けた交通のあり方を検討していくこととしている
<ul style="list-style-type: none"> ・PIにおいて、鉄軌道実現のためには公共交通の利用促進が重要であることを津照る（情報共有）する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PIの実施にあたり考慮する。
<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の利用促進を図るためには、従来のMM（モビリティ・マネジメント）の技術にとらわれない、新しい取り組みも積極的に進めることが重要である。色々なプロモーションの考え方をすることで、需要を増やせるのではないかと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本検討に係る県民への情報提供活動等が、今後公共交通の利用促進を図るためプロモーションの下地づくりとなると考える。
<ul style="list-style-type: none"> ・100万都市圏として考えると中南部都市圏の公共交通が非常に脆弱である点に留意すべき。都市圏内の交通と、県土構造全体としての広域的な交通の視点が重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考資料1において、中南部都市圏内の交通整備が課題ということを追記。

(2) 評価項目について

主な指摘	回答・対策方針など
<ul style="list-style-type: none"> ・評価については、定量化できない項目も考慮すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ3の評価方法検討において、考慮する。
<ul style="list-style-type: none"> ・幹線である鉄軌道に加え、フィーダー交通も含めた評価が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク全体について、総合的評価を行っていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・産業振興の視点として、観光以外の視点、例えば流通、業務の視点等を評価項目として加えておく必要がある。 ・高齢者の交通として、B/C的な視点だけで議論せず福祉政策としても考える必要もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ3の評価指標、評価方法の検討において、これら視点も考慮しつつ検討を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・明治時代からの実態から、鉄道開発は人口の移動を生じさせる。 ・鉄軌道の導入により那覇と名護が1時間圏域になれば北部に住む人も増え、北中南部が一つの都市圏となり、大きなインパクトとなるのではないか。 ・鉄軌道の導入により、県土の土地利用、南北の人口分布がどのように変化するのか。この大きな変化をどのように条件設定するのが重要である。鉄軌道の導入が、県土全体にdeep impactを起こすことを十分に考慮して、マニュアル等は柔軟に解釈して評価してもらいたい。 ・便益として算定できないのであれば、併記するなり効果を多面的に評価することが重要である。 ・南北間の交流人口、通勤圏域の拡大など、人口流動が行われない前提かのような評価項目もある。今後十分に検討したほうが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ3の評価の方法の検討にあたり、多面的な評価も含め検討する。

主な指摘	回答・対策方針など
<ul style="list-style-type: none"> ・高架、地下といった構造形式の問題ではなく、いつ、どの段階で、どのようなネットワークとしていくかが大きな代替案ではないか。 ・何が代替案になるかによって評価項目も変わるかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘通り、どういったネットワークにしていくかという観点から、検討を行っていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・必要性を確認するうえで、上位計画でどのように位置づけられてきたのかを、県民目線で説明していくことが重要である。 ・鉄道プロジェクトの評価手法マニュアルは、新規事業採択時評価のものであり、構想段階よりも後の段階で行う評価である。また、配慮書手続きも、かなり事業化の段階に近い時に行う評価である。 ・今回の評価は、従来の構想段階の評価で行っているように、代替案比較を中心に議論していく設計になっているが、今日議論があったように、必要性の確認についても一定程度の議論が必要ではないか。 ・代替案比較よりも、必要性を確認する段階でいろいろな観点からの評価が議論される必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・対策案検討にあたっての前提条件を次回委員会までに整理し、ステップ3において県民と情報共有を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・資料4のP3では、特殊事情があまり、見えない。また、あまり歩かない、送迎交通の問題は、行動というよりは、ルールの問題かもしれない。 ・評価にあたっての前提や条件について、沖縄にあった形でもう少し整理する必要がある。 ・その際、モノレールとの関係も整理する必要がある。 ・例えば、バス網再編が行わなければ、やるべきではないなど、計画を進めるに当たっての条件を整理する必要がある。 ・通常の構想段階のPIであれば、賛否が分かれています、どのようにプロジェクトを考えるかという問題を背景に取組まれてきた。今回のプロジェクトでは、賛成が多数を占める中で、県民に対して鉄軌道の導入による負担について理解していただくかが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対策案検討にあたっての前提条件を次回委員会までに整理し、ステップ3において県民と情報共有を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・需要予測の内容について、従来の需要予測の技術を基本としつつ、導入時の人口分布への影響をどのように盛り込んでいくか。事例も含め、可能性を広げた評価する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ3の評価方法の検討の中で、今後整理する将来のシナリオを踏まえて検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・評価項目だけではなく、シナリオも含め論理的に説明する必要がある。 ・計画案をどのように、絞るか、それぞれの街がどのようにまちづくりを考えるのかを明確にする必要がある。 ・前提条件をうまく県民に説明する必要がある。 ・通常は、構想段階では、起終点までを決め、ルートまでは議論しない、そうした内容も十分に整理してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対策案検討にあたっての前提条件を次回検討までに整理し、ステップ3において県民と情報共有を図る。

(3) STEP3 移行の検討について

主な指摘	回答・対策方針など
<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの成果（特に将来需要や事業性）を紹介してもらいたい。そうした成果を十分に活用することが必要である。 ・これまでの内閣府での基礎調査の成果のうち活用できるものは活用したほうが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ3以降、順次必要な情報を整理、活用していく。
<ul style="list-style-type: none"> ・フィーダーについては、地域交通をどうするかという市町村の役割が重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ3以降において、市町村と協働で検討。
<ul style="list-style-type: none"> ・技術検討委員会においては、市町村のまちづくりと連動したような計画とすべき、県と市町村の連携を重視するようにとの意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村会議を設置し、市町村と情報共有を図りながら検討を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・鉄軌道計画を、基地返還を与条件としないで検討する必要があるとの意見もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対策案の検討にあたっては、前提条件となる将来のシナリオを複数整理し、これをもとに検討を進めていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの振興計画でも、鉄軌道は駐留軍用地跡地開発と関連付けられて、位置付けがなされてきた。そのため、跡地利用の開発とからめた鉄軌道の導入効果を議論する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対策案の検討にあたっては、前提条件となる将来のシナリオを複数整理し、これをもとに検討を進めていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・沿線開発が前提としていたモノレール延長においての人の動きを整理することは、将来の鉄軌道導入による影響を考えるうえで参考になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ3以降において、モノレールの沿線開発の動きについても整理し、参考とする。
<ul style="list-style-type: none"> ・どのようなルート进行评估するのか、モノレールをどのように位置付けるのか、今後整理いただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ3の対策案検討において、整理を行っていく。